

金杉台中学校に関する地域説明会

資 料

平成31年1月19日 午前10時から
金杉台小学校 体育館

船橋市教育委員会 教育総務課・学務課ほか

本日の流れ(次第)

1. 開会

10時00分

2. 金杉台中学校の現状等について

10時05分～10時35分（約30分）

- (1) 金杉台中学校の現状について
- (2) 国の「適正規模・適正配置等に関する手引」について
- (3) 市の「学校規模・学校配置に関する基本方針」について
- (4) これまでの検討経過について
- (5) 教育委員会の考え

3. 質疑応答・意見交換

10時35分～11時25分（約50分）

4. 閉会

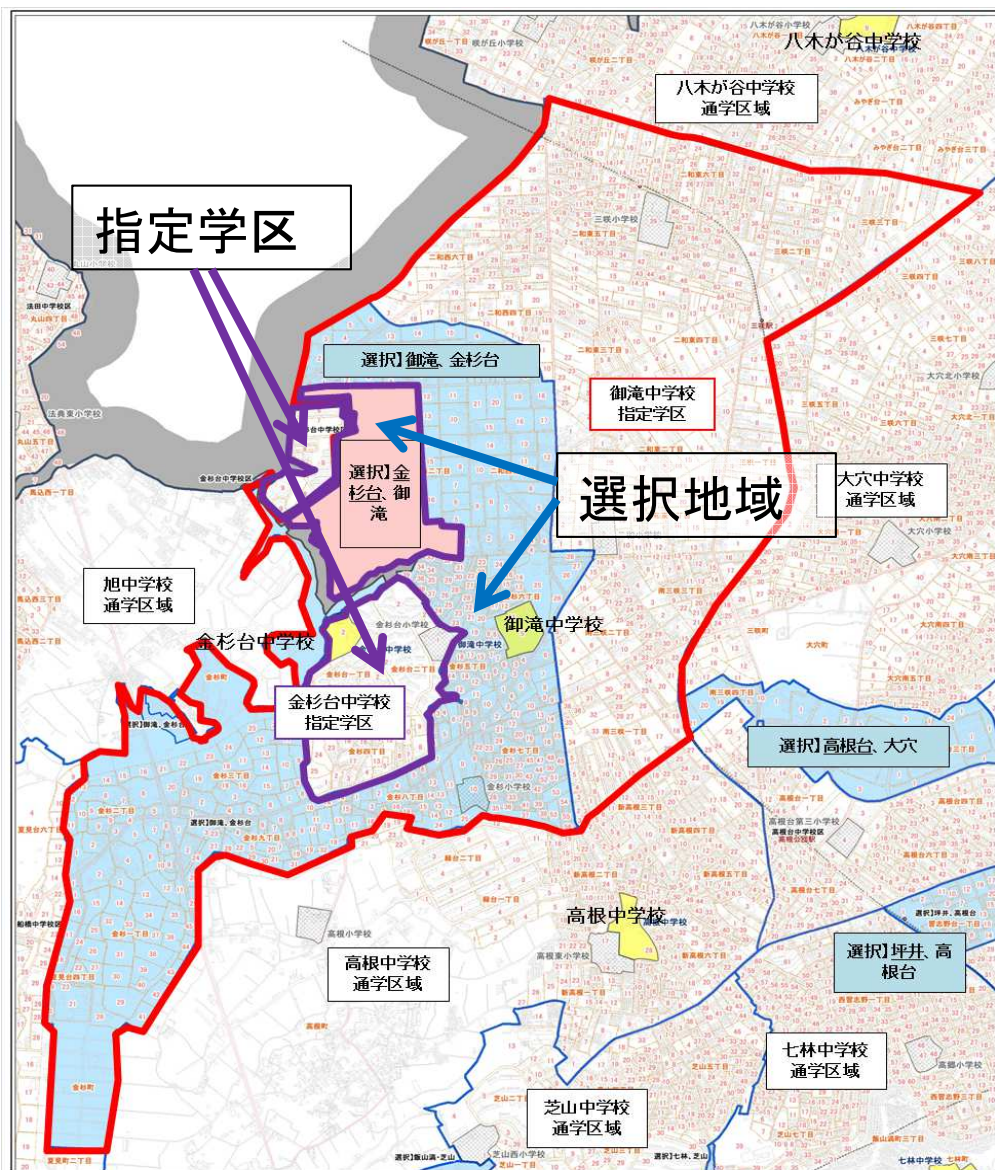
11時30分

配付いたしました『ご意見等記入用紙』の記入にご協力ください。
お帰りの際に出口付近の回収箱にお入れください。

説明会開催の主旨

- 金杉台中学校の現状を説明
- 対応策の検討経過と教育委員会の考えを説明
- 保護者・地域の皆様から広くご意見をいただく
 - (対象)
 - ・金杉台中学校・金杉台小学校の保護者の皆様
 - ・金杉台中学校に通学可能な地域の児童生徒が在籍する
周辺校(小学校5校・中学校1校)の保護者の皆様
 - ・金杉台中学校周辺地域の皆様

金杉台中学校の現状：現在の通学区域と生徒の通学状況

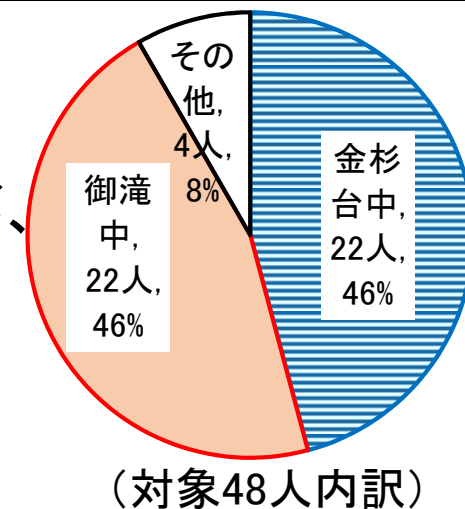


※詳細は別冊参考資料P.2をご覧ください

SCALE=1:7,000

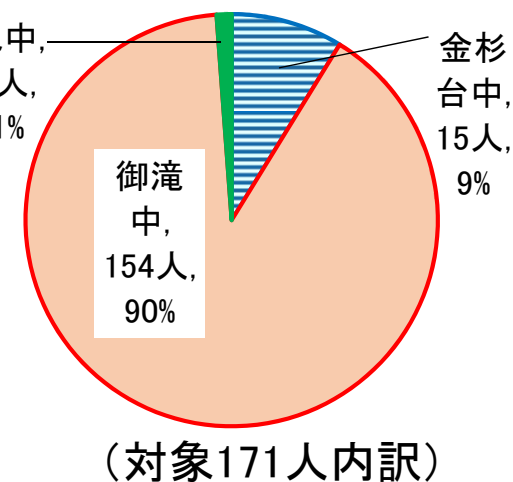
指定学区

通学先は
金杉台中学校に
指定されているが、
通学指定校
変更制度により
半数近くが御滝
中学校に通学



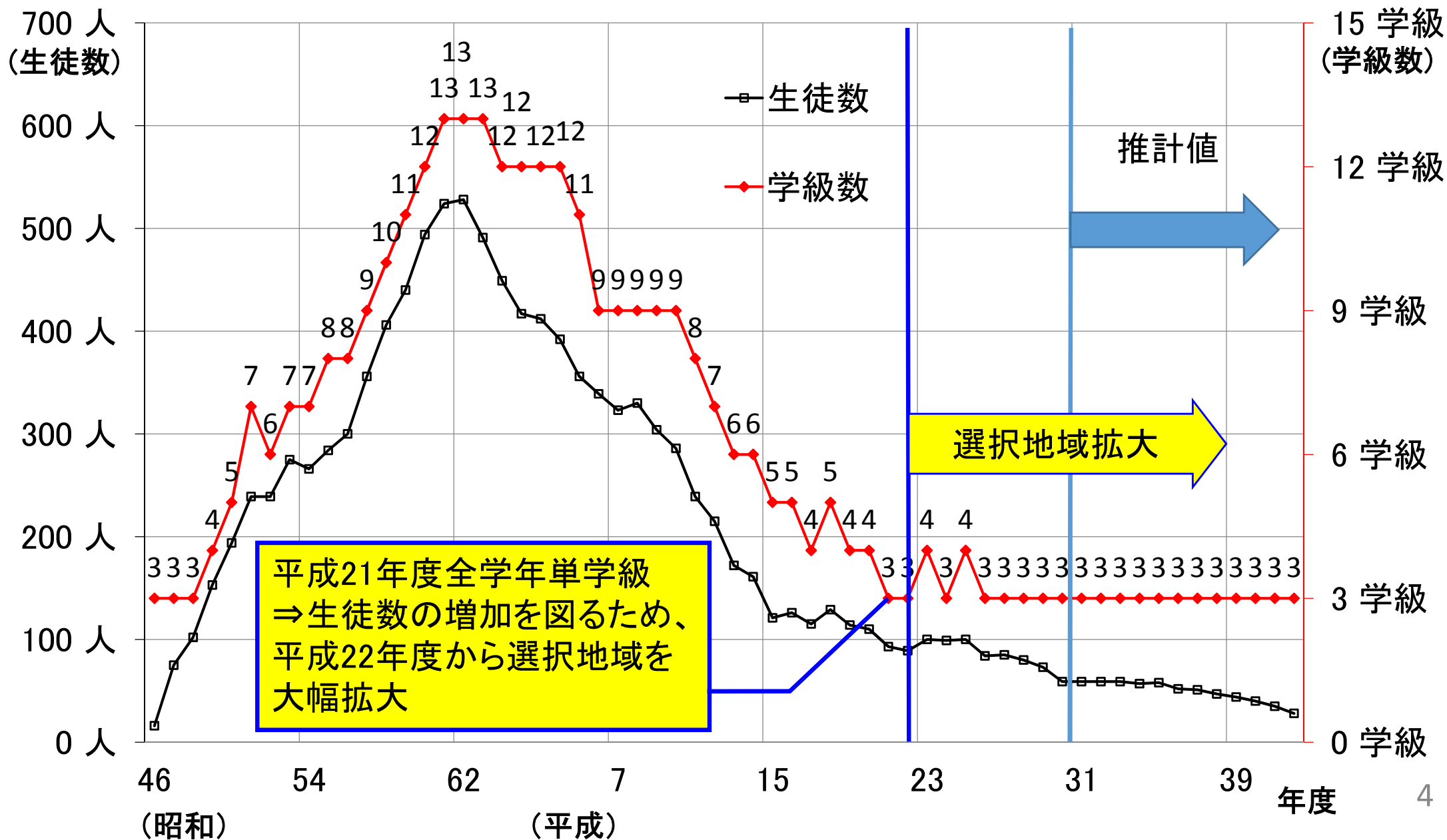
選択地域

約9%の生徒が
通学先として
金杉台中学校
を選択し通学



※グラフは平成29・30年度入学者数から作成

金杉台中学校の現状：学級数・生徒数の推移と今後の推計



「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」 文部科学省（平成27年1月27日）

国の学校規模の標準

学級数の標準	小・中学校 12～18学級 ※学校教育法施行規則 第41条及び第79条
大規模校	小・中学校 25学級以上
過大規模校	小・中学校 31学級以上

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」

小規模校の一般的なメリット

- ・一人一人の学習状況等を把握でき、きめ細かな指導が行いやすい
- ・意見や感想を発表できる機会やリーダーを務める機会が多くなる
- ・運動場などが余裕をもって使える
- ・家庭や地域の状況などが把握しやすいため、効果的な生徒指導ができる など

 小規模校には、上記のような利点がある一方、教育指導上多くの課題

学級数が少ないことによる学校運営上の課題

- ・クラス替えができない
- ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ・部活動の種類が限定される（金杉台中：運動部5 文化部2）
- ・集団活動・行事の効果が下がる
- ・男女比の偏りが生じやすい
- ・集団学習(体育科の球技や音楽科の合唱・合奏)に制約が生じる など

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」

学校規模の適正化に関する基本的な考え方

- ・一定の規模（児童生徒集団・教職員集団）を確保することが重要
- ・児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために、学校規模の適正化の検討を行う

望ましい学級数の考え方

	少なくとも必要な学級数	望ましい学級数
小学校	1学年1学級以上 (6学級以上)	1学年2学級以上 (12学級以上)
中学校	1学年2学級以上 (6学級以上)	9学級以上

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」

本市の学校規模の標準

本市では都市部であるという地理的条件を考慮

小・中学校ともに標準規模は12～24学級とする

標準規模の中学校において期待される効果の例

- ・効果的なクラス替えが可能
- ・学年内での課題別指導や個に応じた指導の充実を図ることができる
- ・より多くの部活動を設置でき、生徒が選択できる(運動部9～11 文化部2～7)
- ・各教科において複数名の教科担任が配置できるなど、組織的な教科経営や生徒指導がしやすくなる(主要5科目の教科担任が各3～6人)
- ・より多くの友人と切磋琢磨する機会を増やし、社会性を育むことができる

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」

市の学校規模の分類(中学校)

過小規模校	2学級以下	全学年に学級を作ることができないため、教育課程の編成・実施に際し、特別な配慮が必要とされる規模の学校
小規模校	3～11学級	各学年の学級数が少なく、教育課程の編成・実施に際し、配慮を要する規模の学校
標準規模校	12～24学級	教育課程の編成・実施に際し、標準と考えられる規模の学校
大規模校	25～30学級	各学年の学級数がやや多く、教育課程の編成・実施に際し、配慮を要する規模の学校
過大規模校	31学級以上	各学年の学級数が多く、教育課程の編成・実施に際し、特別な配慮が必要とされる規模の学校

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」

適正規模化に向けた基本方針(中学校)

小規模校	基本方針
3～11学級	推計において、 今後、過小規模となることが継続的に見込まれる場合、 <u>単学級の学年が継続的に発生することが予想される場合</u>、 または複数の過小・小規模校が隣接している場合 ⇒<u>通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、 望ましい対応策について検討を始める</u>



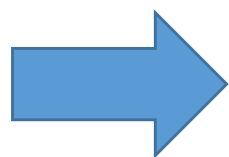
金杉台中学校について望ましい対応策の検討を始める

検討経過①金杉台中学校の現状についてのヒアリング

概要

(対象) 金杉台中学校と金杉台小学校の学校評議員とPTA役員

(回数) それぞれの関係者と各1～2回



様々な意見があることがわかり、関係者が一堂に会した
「金杉台中学校の今後を考える会」において意見交換していく

教育委員の意見(教育委員会会議平成30年2月定例会)

- ・現状維持では問題が多い。議論にあたっては、市の基本方針に沿っているかどうかの方が大事。子供たちの教育環境を第一に考えること、教育の機会均等、この二つの観点から考えると統合が一番妥当ではないか。
- ・長年、地域で支えてくださった方々や、保護者の意向を把握し、きちんと説明した上で、デメリット、メリットを明らかにして議論を進めていくように。
- ・何よりも子供たちのためにどうすることが一番良いかということで、統合について考えていく必要がある。

検討経過②船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の概要

目的

全学年単学級の状況が継続すると予想される金杉台中学校の教育環境の充実のため、市の基本方針に基づき、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について意見交換を行う

構成

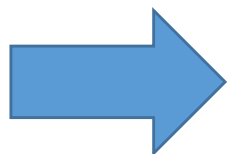
金杉台中学校と金杉台小学校の学校評議員とPTA役員の代表者（各校それぞれ2人程度）、金杉台中学校校長、金杉台小学校校長、教育委員会事務局管理部長、教育総務課長、学務課長

開催

第1回：平成30年2月

第2回：平成30年7月

第3回：平成30年8月



金杉台中学校の今後を考える会の概要を
「考える会ニュース」としてまとめ発行

検討経過②第1回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会 主な意見

小中一貫教育

- ・小中一貫校等で学校の魅力を高めたらどうか
- ・金杉台小学校に金杉台中学校を移して一体化する

通学区域の変更

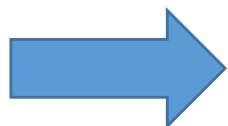
- ・金杉台中の選択地域を拡大できないか
- ・選択地域をなくし、金杉台中の通学区域を固定してほしい
など、通学区域を変更して、生徒を増やせないか

存続

- ・小規模校の良さや少人数のメリットを感じて金杉台中に入る子もいる

統合

- ・中学校はなくなってほしくないが、学級数が多いほうが友達もたくさんでき、子供たちにとって良いのではないか



意見はおおむね4つに集約される

検討経過②第2回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

小中一貫教育について

◇研究の経過(平成17年度～小中連携プロジェクト⇒平成24年度 研究報告書)

- ・小中一貫教育校(※)は設置しない

(※いわゆる現在の「義務教育学校」に近い)

◇金杉台小・中学校における施設一体化を検討

- ・機能を移しきれず、施設面で十分な教育環境を確保できない

意見

- ・中学校をなくすのではなく、これまでの金杉台小との連携教育を大事にしてほしい
- ・金杉台中学校の問題を小中連携・一貫教育のみで考えていくのは困難

検討経過②第2回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

通学区域の変更について

意見 通学区域を変更して、金杉台中の生徒を増やせないか

➡ ①～④の通学区域変更案をシミュレーション

①通学区域を広げる

御滝中と金杉台中の選択地域の一部
⇒金杉台中の指定学区に変更

②通学区域を広げる

御滝中と金杉台中の選択地域の一部
＋旭中の通学区域の一部
⇒金杉台中の指定学区に変更

③選択地域を広げる

御滝中の通学区域全体
⇒御滝中と金杉台中の選択地域に変更

④金杉台小・中の通学区域を合わせる

金杉台小の指定学区全体
⇒金杉台中の指定学区に変更

➡ ①～④の通学区域変更案とも一時的には金杉台中学校の生徒は増えるが、推計可能なこの先12年以内に全学年単学級に戻る

検討経過②第2回・第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

存続について

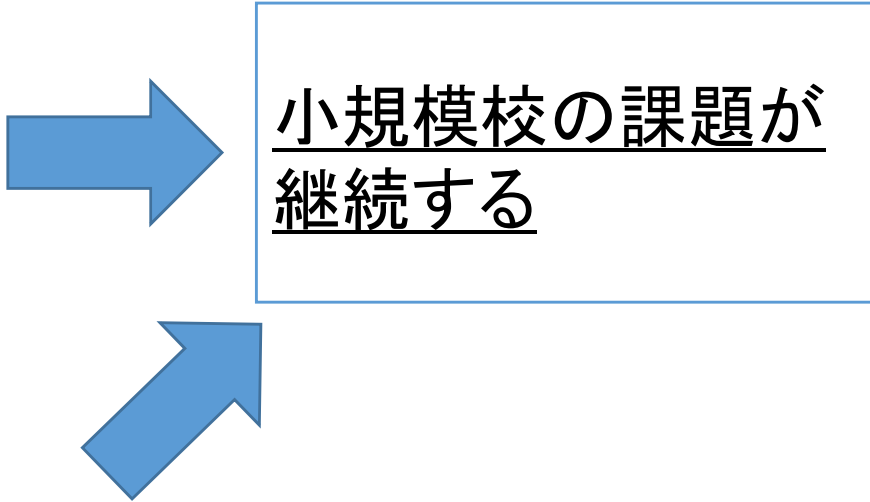
意見

- ・小規模校の良さがある
- ・小規模校では手厚い教育を受けられる
- ・金杉台中を残すことはできないか
- ・人数が多いと経験できないことも
金杉台中では経験できる

存続に向けて...

意見

- ・今年度、金杉台中でバスケットボール同好会ができ、子供の意見を聞く学校側の姿勢に子供たちは期待している。学校側の動きが重要
- ・連携教育の魅力や、自然教育を特徴づけるなど、魅力ある学校づくりで、選択地域から金杉台中を選んでもらい生徒を増やせないか
- ・子供たちが行きたいという学校の中身や、個々を大事にしてくれる先生の力量で、金杉台中に行きたいと思う人が増えるのではないか



小規模校の課題が
継続する

検討経過②第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

統合について 金杉台中学校の通学区域と周辺校との関係

学校名	現学級数	通学距離	地理的要因	小・中学校のつながり
御滝中学校	21学級	一部同程度だが、基本的には遠くなる	御滝中学校の通学区域に包含されている	金杉台小学校の一部の児童は入学する
旭中学校	20学級	遠くなる	旭中学校と金杉台中学校の通学区域の間に馬込霊園が位置する	金杉台小学校から基本的に入学しない
高根中学校	11学級		仮に統合した場合、飛び地の通学区域となる	

検討経過②第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

統合について 金杉台中学校と御滝中学校の推計

※ ○数字は特別支援学級

校名	年度	合計	
		学級数	生徒数
金杉台中	30	3	59
	31	3	59
	32	3	59
	33	3	59
	34	3	57
	35	3	58
	36	3	52
	37	3	51
	38	3	47
	39	3	44
	40	3	40
	41	3	35
	42	3	28

+

校名	年度	合計	
		学級数	生徒数
御滝中	30	② 21	⑨ 781
	31	24	832
	32	26	889
	33	27	919
	34	27	927
	35	26	930
	36	27	916
	37	25	876
	38	24	839
	39	24	798
	40	22	740
	41	19	666
	42	18	628

検討経過②第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

金杉台中と御滝中の推計を合算

校名	年度	合計	
		学級数	生徒数
金杉台中	30	② 24	⑨ 840
	31	25	891
	32	27	948
	33	28	978
	34	28	984
	35	28	988
	36	27	968
	37	27	927
	38	26	886
	39	24	842
御滝中	40	22	780
	41	20	701
	42	20	656

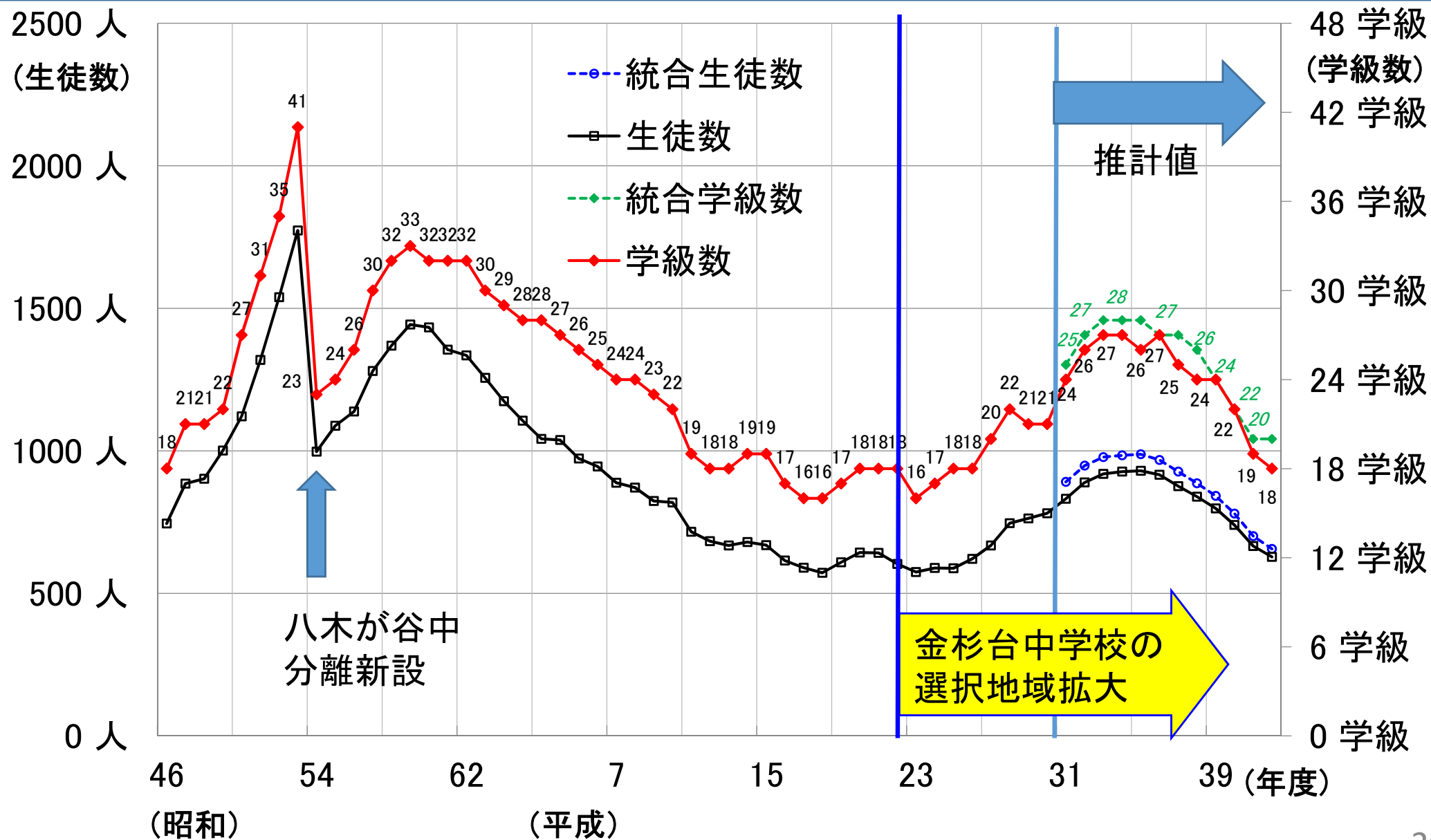
統合について

意見

- ・子供の立場に立てば、やはり生徒数の多い学校に行くべき
- ・義務教育なので、同じ教育環境を与えてあげたい。多様性のある人間集団となる環境を早く作ってあげたい。

※ ○数字は特別支援学級

参考：御滝中学校及びの学級数・生徒数の推移と今後の推計



※統合生徒数・統合学級数：金杉台中と御滝中の推計を合算

金杉台中学校の今後の対応策についての教育委員会の考え

考える会の意見を検証

- ・小中一貫教育校の設置 →
 - ・施設設備面や職員体制などの課題から導入しない
 - ・施設一体化では十分な教育環境を確保できない
 - ・小規模校の課題が継続
- ・通学区域(学区)の見直しにより金杉台中学校の生徒数を増やす対応策 →
 - ・長期的な効果が見込めず、望ましい対応策と言えない
(数年後に再度検討が必要)
 - ・見直しとなる地域の理解を得る必要がある

教育環境の充実のためには、統合が望ましいと考える

保護者説明会・地域説明会を開催し、意見聴取する

- ・統合決定の時期、統合の時期は今後の検討事項
- ・統合する場合、準備・課題整理等のため準備検討組織の立ち上げを想定。

金杉台中学校に関する保護者説明会（平成30年11月10日）①

概要

- ・金杉台中学校、金杉台小学校の在校生の保護者を対象
- ・参加者24人、質問者10人、意見等記入用紙18枚回収
- ・本日の説明会と同様の内容説明

質疑応答

決定までのプロセス・スケジュールは	地域での説明会を重ね、おおむね了承が得られたら教育委員会会議にかける
金杉台団地の建替えを迎えたときに金杉台中学校がないと、御滝中学校が過大規模校になるのではないか	URの計画に金杉台団地の建替えは入っていないと聞くが、仮に建替えが生じたときには全市的に少子化が進み、子供の数があふれることまでは想定しにくい
団地の中に金杉台中学校があり、公共施設としての避難場所があることが重要	まだ統合が決まっていないので、統合後の公共施設をどうするかは検討していないが統合とは別に検討が必要だと考えている
統合は白紙と考えてよいか	全くの白紙ではなく、下書きの段階

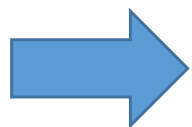
金杉台中学校に関する保護者説明会（平成30年11月10日）②

意見

- ・金杉台中学校には少人数のメリットがあり、できれば存続してほしい
- ・細やかに見てくれるので、いじめが少ないと感じている
- ・学習環境として小規模校はメリットが大きい
- ・金杉台中学校に通う生徒、保護者、教員、入学を希望する児童、特別支援学級の関係機関、地域の方など、広く意見を聞き考えてほしい
- ・御滝中学校の校舎や学校の現状に不安

意見等 記入用紙

回収18枚 （自由記述）	・存続を求める意見 （統合に反対する意見）	11件
	・統合に賛成する意見	1件
	・その他	2件



子供たちの教育環境の充実のためという観点で、
いただいた意見を踏まえ検討

今後の説明会について

本日いただいたご意見等を踏まえ、
「地域説明会」を複数回開催していきます

お問合せ先

船橋市教育委員会 教育総務課 企画係

〒273-8501 船橋市湊町2-10-25

TEL:047-436-2802 FAX:047-436-2808

MAIL:kyosomu@city.funabashi.lg.jp

◆船橋市ホームページ◆

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針について」

<http://www.city.funabashi.lg.jp/kodomo/keikaku/002/p055056.html>

「金杉台中学校に関する学校規模・学校配置の適正化の検討状況」

<http://www.city.funabashi.lg.jp/kodomo/keikaku/002/p065270.html>